

専門学校広島工学院大学校

自動車整備科 2 級自動車整備士コース

【 シラバス 】

2025 年度版

専門学校広島工学院大学
自動車整備科2級自動車整備士コース

[指定時間]

教科	教育科目	ID	科目名	教育内容	1年次	2年次	指定コマ数 (指定時間)						
学科	自動車工学	10	自動車工学1	自動車の構造・性能	9	6	341 (613.8H)						
				自動車の力学・数学	26	15							
				電気・電子理論	6	6							
				材料	0	6							
				燃料・潤滑剤	0	6							
				図面	0	6							
	自動車整備	21	エンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置 燃料装置、電子制御装置	36	24							
				22	シャシ	動力伝達装置、サスペンション ステアリング装置、ホイール、タイヤ アライメント、ブレーキ装置、フレーム		62	52				
						23		電装	点火装置、始動装置、充電装置、 予熱装置、空調装置	26	20		
									24	故障原因探求	故障原因探求	0	12
25							電子制御装置				ハイブリッド自動車、電気自動車 先進安全技術	0	10
自動車整備に関する法規	30	自動車整備に関する法規	法令（車両法・保安基準）	13	0								
自動車検査	40	自動車検査	検査業務・検査機器の取扱	0	13	13 (23.4H)							
小計 (A)					178	176	354 (637.2H)						
実習	自動車整備作業	51	エンジン点検、分解、組立、調整、検査	エンジン整備・点検調整等	100	72	676 (1216.8H)						
				52	シャシ点検、分解、組立、調整、検査	シャシ整備・点検調整等		164	140				
						53		電装点検、分解、組立、調整、検査	電装整備・点検調整等	88	68		
									54	故障原因探求	電子制御故障診断等	0	24
											55	電子制御装置	ハイブリッド自動車、電気自動車 先進安全技術
	自動車検査作業	60	自動車検査作業		16	16	32 (57.6H)						
	小計 (B)					368	340	708 (1274.4H)					
合計 (A+B)					546	516	1062 (1911.6H)						
教養	70	一般教養			20	0	20 (36.0H)						
	80	工作作業			8	0	8 (14.4H)						
	90	特別教育活動			16	16	32 (57.6H)						
	小計 (C)					44	16	60 (108.0H)					
合計 (A+B+C)					590	532	1122 (2019.6H)						

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
10	自動車工学	自動車の構造・性能	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期・後期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車の定義や歴史やエンジンやシャシの基本構造の基礎を学び自動車に関する理解を深める。 また、自動車に使用されている燃料及び油脂についても学ぶ。		
授業計画	自動車の概要 (第 1 章) P13~P17 1. 自動車の歴史 2. 自動車の分類 3. 自動車の構成 自動車の機械要素 (第 2 章) P19~P27 1. ねじ 2. スプリング 3. ベアリング 4. ギア 5. ベルト及びプーリ 6. チェーン及びスプロケット 基礎的な原理・法則 (第 3 章) P29~P35 (※力学・数学に含まれるものは除く) 1. 熱 2. 力 3. 仕事とエネルギー 4. 圧力と応力 燃料及び潤滑剤 (第 8 章) P333~P339 1. 燃料 1) ガソリン 2) 軽油 3) LPG (液化石油ガス) 4) CNG (圧縮天然ガス) 2. 潤滑剤 1) 潤滑の目的 2) 潤滑剤の種類 (1) エンジン・オイル (2) ギヤ・オイル (3) ATF 及び CVTF (4) グリース		9 コマ (16.2H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。また、予習・復習をし、理解を深める。 ②基礎的な自動車の構造から実施し、理解を深める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施し、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車材料」 全国自動車整備専門学校協会発行「内燃機関、燃料、油脂」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
10	自動車工学	自動車の力学・数学	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期・後期)
授業形態	講義	授業時間	26 コマ (1 コマ 90 分) 46.8 時間
目的・目標	自動車の基礎的な原理・法則を通じて、自動車整備士に必要な自動車基礎工学を学習するとともに、自動車工学に必要な計算知識を習得する。		
授業計画	自動車の力学・数学 1-01. 単位 (メートル単位系と SI (国際) 単位系) 1-02. 時速と秒速 (道のり、速さ、時間の関係) 1-03. 燃料消費率 (燃料消費量と走行距離の関係) 1-04. 排気量と総排気量 1-05. 圧縮比 (排気量と燃焼室容積の関係) 1-06. トルク (回転力) 1-07. バルブ機構 1-08. プレーキ機構 (比率 (比例式)、力のつり合い、距離と力の関係) 1-09. 圧力 (プレーキ機構) 1-10. 水平距離 1-11. 仕事・効率 (仕事率 (W) と仕事量 (J)) 1-12. 動力の伝達 (変速と減速) 1-13. オームの法則 1-14. サーキット・テストの活用	26 コマ (46.8H)	
学習方法	①教科書や専用テキストを中心に授業を進める。また、予習・復習をし、理解を深める。 ②基礎的な計算から実施し、理解を深める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施し、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	専門学校広島工学院大学校専用「工学計算 専用テキスト・ファイル」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
10	自動車工学	電気・電子理論	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期・後期)
授業形態	講義	授業時間	6 コマ (1 コマ 90 分) 10.8 時間
目的・目標	自動車に関する電気・電子の基礎知識を学ぶことにより、自動車整備士に必要な電気回路・電子回路知識を習得する。		
授業計画	基礎的な原理・法則 (第 3 章) P36~P48 ----- 1. 電気 (※力学・数学に含まれるものは除く) 1) 電流 2) 電圧 3) 電流の三作用 4) 電源と起電力 5) 直流と交流 6) 電気抵抗 7) 電気回路 8) オームの法則 9) 直列接続と並列接続 10) 電圧降下 11) 電力及び電力量 12) 導体、不導体及び半導体 2. 磁気 1) 磁極 2) 磁界と磁力線 3) 磁束と磁束密度 4) 電流による磁界 5) コイル 6) 電磁力 7) 電磁誘導 (参考) 1. 低圧の電気に関する基礎知識 2. サーキット・テストの活用		6 コマ (10.8H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
21	自動車整備	エンジン 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のエンジンに関する、作動原理、機能・構造、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン (第 4 章) P49～P86 1. エンジン本体 1) エンジンの原理 2) 機能・構造 (1) シリンダ・ヘッド (2) シリンダ・ヘッド・ガスケット (3) シリンダ、クランクケース、シリンダ・ブロック (4) ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング (5) コンロッド、コンロッド・ベアリング (6) クランクシャフト、ジャーナル・ベアリング (7) フライホイール、リング・ギア (8) バルブ機構 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) シリンダ・ヘッド (2) シリンダ、クランクケース、シリンダ・ブロック (3) ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング (4) コンロッド、コンロッド・ベアリング (5) クランクシャフト、ジャーナル・ベアリング (6) フライホイール、リング・ギア (7) バルブ機構	9 コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「ジーゼル・エンジン構造」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
21	自動車整備	エンジン 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車の潤滑装置、冷却装置及び吸排気装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン (第 4 章) P87～P15 1. 潤滑装置 1) 概要 (1) オイルの循環 (2) ピストンの冷却 2) 構造・機能 (1) オイル・ポンプ (2) オイル・フィルタ (3) オイル・パン 2. 冷却装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) ウォータ・ポンプ (2) ラジエータ及びサーモスタット (3) ファン (4) 不凍液 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) ウォータ・ポンプ (2) ラジエータ及びサーモスタット 3. 吸排気装置 1) 概要 (1) ガソリン・エンジン (2) ジーゼル・エンジン 2) 構造・機能 (1) エア・クリーナ (2) インテーク・マニホールド及びエキゾースト・マニホールド (3) エキゾースト・パイプ及びマフラ 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施)	8 コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「ジーゼル・エンジン構造」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
21	自動車整備	エンジン 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車の燃料装置及び電子制御装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン (第 4 章) P105～P137 1. 燃料装置 (ガソリン・エンジン) 1) 概要 2) 構造・機能 (1) インジェクタ (2) フューエル・ポンプ (3) フューエル・タンク (4) フューエル・パイプ 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) 整備上の全般的な注意事項 (2) 取り外し・取り付けの要点 2. 燃料装置 (ディーゼル・エンジン 機械式燃料噴射装置) 1) 概要 3. 電子制御装置「ガソリン・エンジン」 1) 概要 2) 構造・機能 (1) 燃料系統 (2) 吸気系統 (3) 点火系統 (4) 制御系統 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) 4. 電子制御装置「ディーゼル・エンジン (コモンレール式高圧燃料噴射装置)」 1) 概要 2) 構造・機能 (1) サプライ・ポンプ (2) コモンレール (3) インジェクタ (4) センサ 5. 排出ガス浄化装置 1) 排出ガスの発生過程とその成分 2) 排出ガス浄化の対応策 3) 排出ガス浄化装置 (1) 触媒コンバータ (2) EGR 装置 (3) ブローバイガス還元装置 等 6. 車載式故障診断装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) 自己診断機能	8 コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「ディーゼル・エンジン構造」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
21	自動車整備	エンジン 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のエンジン (点検・整備) に関する必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	点検・整備 (第 9 章) P341～P349 1. エンジン 1) 概要 2) 点検・整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) エンジン・オイルの点検 (2) 冷却水の点検 (3) 補機類の駆動用ベルトの点検 (4) エア・クリーナの点検 (5) フューエル・フィルタの点検 (6) バッテリの点検 (7) 予熱装置の点検 (8) バルブ・クリアランスの点検・構成 (9) 圧縮圧力の点検 (10) フューエル・ポンプの点検 (ガソリン・エンジン) (11) スパーク・プラグの点検 (ガソリン・エンジン) (12) 点火火花の点検 (ガソリン・エンジン) (13) 点火時期の点検 (ガソリン・エンジン) (14) アイドル回転速度の点検 (15) 排気の状態点検 (16) エンジンの始動状態の点検 (17) 低速及び加速状態の点検 (18) 充電状態の点検 (19) 電気配線の点検 (20) 排気ガス浄化装置の点検 (21) エキゾースト・パイプ及びマフラの点検	8 コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「ジーゼル・エンジン構造」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
22	自動車整備	シャシ 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車の「走る、止まる、曲がる」原理及び動力伝達装置に概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P161～P206 1. 自動車の運動性能 1) 運動性能の原理 (1) 走る原理 (2) 止まる原理 (3) 曲がる原理 2. 動力伝達装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) クラッチ (2) トランスミッション (3) トランスファ (4) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイント (5) 駆動装置 (二輪車) (6) ファイナル・ギア及びディファレンシャル 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) クラッチ (2) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイント (3) ファイナル・ギア及びディファレンシャル		9 コマ (16.2H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅰ」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅱ」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
60	自動車整備	シャシ 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義・実習	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のアクスル及びサスペンションに関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P207～P223 1. アクスル及びサスペンション 1) 概要 2) 構造・機能 (1) アクスル (2) サスペンション (3) アクスル及びサスペンション (二輪車) 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) アクスル (2) サスペンション (3) スプリング (4) ショック・アブソーバ	9 コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 II」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
21	自動車整備	シャシ 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のステアリング装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P224～P238 ----- 1. ステアリング装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) ステアリング操作機構 (2) ステアリング・ギア機構 (3) ステアリング・リンク機構 (4) パワー・ステアリング 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) ステアリング操作機構 (2) ステアリング・リンク機構 (3) パワー・ステアリング		9 コマ (16.2H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 II」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
22	自動車整備	シャシ 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のホイール、タイヤ及びアライメントに関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P239～P263 1. ホイール及びタイヤ 1) 概要 2) 構造・機能 (1) ホイール (2) タイヤ (3) タイヤの起こる異常現象 (4) ホイール・バランス 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) 点検・修正 (2) タイヤの脱着 (3) 車両の取付け (4) タイヤ・パンク修理 2. ホイール・アライメント 1) 概要 (1) 前後輪の相互関係 (2) ホイール・アライメント 2) 構造・機能 (1) キャンバ (2) キャスタ (3) キング・ピン傾角 (4) トー (5) スラスト角 (6) セット・バック (7) 左右のホイールの切れ角 (ターニング・ラジラス) 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) 点検時の注意事項 (2) 点検・修正		9 コマ (16.2H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 II」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
22	自動車整備	シャシ 5	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	9 コマ (1 コマ 90 分) 16.2 時間
目的・目標	自動車のブレーキ装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P264~P287 1. ブレーキ装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) フート・ブレーキ (2) パーキング・ブレーキ 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) フート・ブレーキ (2) パーキング・ブレーキ		9 コマ (16.2H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 II」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
22	自動車整備	シャシ 6	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	8 コマ (1 コマ 90 分) 14.4 時間
目的・目標	自動車のフレーム、ボデー及び安全装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ (第 6 章) P288～P303 1. フレーム及びボデー 1) 概要 2) 構造・機能 (1) フレーム (2) ボデー (3) ボデー機能部品 (4) ボデーの塗装 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) き裂 (2) リベットの緩み 2. 安全装置 1) 概要 (1) 予防安全装置 (アクティブ・セーフティ) (2) 衝突安全装置 (パッシブ・セーフティ)		8 コマ (14.4H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 II」		
評価方法	単元試験 80%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
22	自動車整備	シャシ7	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1年次(後期)
授業形態	講義	授業時間	9コマ(1コマ90分) 16.2時間
目的・目標	自動車のシャシ(点検・整備)に関する必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	点検・整備(第9章) P350~P365 1. シャシ 1) 概要 2) 点検・整備(※自動車整備作業にて実施) (1) クラッチの点検 (2) トランスミッションの点検 (3) プロペラ・シャフト、ドライブシャフト及びユニバーサル・ジョイントの点検 (4) ディファレンシャルの点検 (5) チェーン、スプロケット及びドライブ・ベルトの点検(二輪車) (6) アクスル及びサスペンションの点検 (7) ステアリング装置の点検 (8) ホイール及びタイヤの点検 (9) 大型トラック・バスの車輪の取り扱い (10) ブレーキの点検 (11) パーキング・ブレーキの点検・調整 (12) 給油	9コマ (16.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士(総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅰ」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅱ」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80点以上)、良(70~80点未満)、可(60~70点未満)、不可(60点未満)		
備考	※1コマ(90分) 授業を1.8時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
23	自動車整備	電装 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	7 コマ (1 コマ 90 分) 12.6 時間
目的・目標	エンジン電気装置のバッテリー、始動装置及び充電装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン電気装置 (第 5 章) P139~P152 1. バッテリー 1) 概要 2) 構造 3) 機能 (1) 放電 (2) 充電 (3) 容量 (4) 自己放電 (5) 形式 4) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) 使用中の整備 (2) 充電 (3) ブースターケーブルの取り扱い (4) バッテリー交換作業時などの注意 2. 始動装置 1) 概要 2) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) 車上的点検 (2) スタータの取り外し及び取り付け 3. 充電装置 1) 概要 2) 構造 (1) 励磁式オルタネータ (2) マグネット式オルタネータ (二輪車) 3) 整備 (1) 車上的点検 (2) オルタネータの取り外し及び取り付け		8 コマ (14.4H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
23	自動車整備	電装 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	7 コマ (1 コマ 90 分) 12.6 時間
目的・目標	エンジン電気装置の点火装置及び予熱装置に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン電気装置 (第 5 章) P153~P159 1. 点火装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) 点火の基礎 (2) 気筒別独立点火方式 (ダイレクト・イグニッション) 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) イグニッション・コイル (2) スパーク・プラグ 2. 予熱装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) インテーク・エア・ヒータ式 (2) グロー・プラグ式 (3) インジケータ・ランプ 3) 整備 (※自動車整備作業にて実施) (1) グロー・プラグの点検 (2) 配線及び端子部の点検	8 コマ (14.4H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
23	自動車整備	電装 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	6 コマ (1 コマ 90 分) 10.8 時間
目的・目標	シヤシ電気装置の灯火装置及び計器に関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シヤシ電気装置 (第 7 章) P305~P322 1. 灯火装置 1) 概要 2) 構造・機能 (1) ランプの光源 2) ヘッドランプ 3) テール・ランプ 4) ストップ・ランプ 5) バックアップ・ランプ 6) ライセンス・プレート・ランプ 7) ターン・シグナル・ランプ 8) ハザード・ウォーニング・ランプ 9) ヒューズ及びヒューズブル・リンク 10) リレー 3 整備 (※自動車整備作業にて実施) 1) ヘッドランプ 2) その他の灯火装置 2. 計器 1 概要 1) 計器 2) 警報装置 2 構造・機能 1) スピードメータ 2) エンジン・タコメータ 3) ゲージ類 4) ウォーニング・ランプ 3 整備 (※自動車整備作業にて実施) 1) スピードメータ 2) エンジン・タコメータ 3) ゲージ類 4) ウォーニング・ランプ		8 コマ (14.4H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
23	自動車整備	電装 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	6 コマ (1 コマ 90 分) 10.8 時間
目的・目標	シヤシ電気装置の冷房装置及びホーン、ウインドシールド・ウォッシャに関する概要、構造・機能、名称等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シヤシ電気装置 (第 7 章) P323~P331 1. 冷房装置 1 概要 2 構造・機能 1) 冷房機能 2) 暖房機能 3 整備 (※自動車整備作業にて実施) 1) 冷房機能 2) 暖房機能 3) 共通部 2. ホーン、ウインドシールド・ワイパ及びウインドシールド・ウォッシャ 1 概要 2 構造・機能 1) ホーン 2) ウインドシールド・ワイパ及びウインドシールド・ウォッシャ 3 整備 (※自動車整備作業にて実施) 1) ホーン 2) ウインドシールド・ワイパ 3) ウインドシールド・ウォッシャ	8 コマ (14.4H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
30	自動車整備に関する法規	法令	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	講義	授業時間	13 コマ (1 コマ 90 分) 23.4 時間
目的・目標	自動車整備に関する法規 (道路運送車両、道路運送車両の保安基準) に関する基礎知識を習得する。		
授業計画	自動車整備に関する法規 ----- 1. 道路運送車両法 1 総則 2 自動車の登録 3 保安基準 4 点検整備制度 5 検査制度 6 自動車の整備事業 2. 道路運送車両の保安基準 1 自動車の構造 2 自動車の装置 (原動機及びシャシ関係) 3 自動車の装置 (車体関係) 4 自動車の装置 (公害関係) 5 自動車の装置 (灯火関係) 6 自動車の装置 (運転操作)	13 コマ (23.4H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	公論出版発行「三級法令」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
51	自動車整備作業	エンジン 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	25 コマ (1 コマ 90 分) 45.0 時間
目的・目標	自動車のエンジン整備 (エンジン本体) に関する、点検方法や分解組立要領等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン整備 (エンジン本体) 1. エンジン本体の点検、分解、組立、調整、検査 (単体エンジン、単体部品) 1) シリンダ・ヘッド (1) 点検 (2) 分解・組み立ての要点 2) シリンダ及びシリンダ・ブロック (1) 点検 3) ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング (1) 点検 (2) 分解の要点 (3) 組み立ての要点 4) コンロッド及びコンロッド・ベアリング (1) 点検 5) クランクシャフト及びジャーナル・ベアリング (1) 点検 (2) 分解の要点 (3) 組み立ての要点 6) フライホイール及びリング・ギヤ (1) 点検 (2) 分解・組み立ての要点 7) バルブ機構 (1) 点検 (2) 分解・組み立ての要点 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	25 コマ (45.0H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」「ディーゼル・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
51	自動車整備作業	エンジン 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	25 コマ (1 コマ 90 分) 45.0 時間
目的・目標	自動車のエンジン整備 (潤滑装置、冷却装置、吸排気装置) に関する、点検方法や分解組立要領等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン整備 (潤滑装置、冷却装置、吸排気装置) 1. 潤滑装置の点検、分解、組立、調整、検査 (単体エンジン、単体部品) 1) オイル・ポンプ (1) 点検 (トロコイド式オイルポンプ) (イ) 各クリアランスの点検 (ロ) オイル・ポンプ・ボデー、オイル・ポンプ・カバーの亀裂、損傷の点検 (ハ) リリーフ・バルブの点検 (2) 組み立ての要点 2) オイル・フィルタ、オイル・パン (1) 点検 (2) 取り付けの要点 2. 冷却装置の点検、分解、組立、調整、検査 (単体エンジン、単体部品) 1) ウォータ・ポンプ、ラジエータ及びサーモスタット (1) 点検 (イ) ベアリング、インペラ及びポンプ・ボデーの点検 (ロ) ラジエータ・キャップの機能の点検、ラジエータの水漏れの点検 (ハ) サーモスタットの点検 (二) 冷却水の凍結温度の点検 3. 吸排気装置の整備 1) エア・クリーナ (1) 点検 (2) 分解・組み立ての要領 2) インテーク・マニホールド及びエキゾースト・マニホールド (1) 点検 (2) 分解・組み立ての要領 4. 実習のまとめ (実習レポート) 5. 確認テスト	25 コマ (45.0H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」「ジーゼル・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
51	自動車整備作業	エンジン 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	25 コマ (1 コマ 90 分) 45.0 時間
目的・目標	自動車のエンジン整備 (電子制御装置) に関する、点検方法や分解組立要領等を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン整備 (電子制御装置) 1. 電子制御装置「ガソリン・エンジン」 1) 吸気系統 (1) エア・フロー・メータ (熱線式) (イ) スキャン・ツールを用いた点検方法 (ロ) スキャン・ツールを用いない点検方法 2) 燃料系統 (1) フューエル・ポンプの作動点検 (イ) スキャン・ツールを用いた点検方法 (ロ) スキャン・ツールを用いない点検方法 3) 燃圧点検 (イ) スキャン・ツールを用いた点検方法 (ロ) スキャン・ツールを用いない点検方法 4) 制御系統 (イ) スキャン・ツールを用いた点検方法 (ロ) スキャン・ツールを用いない点検方法 2. 電子制御装置「ディーゼル・エンジン (コモンレール式高圧燃料噴射装置)」 1) 整備上の全般的な注意事項 2) インジェクタ補正值登録 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト	25 コマ (45.0H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」「ディーゼル・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学
自動車整備科 2級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
51	自動車整備作業	エンジン 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1年次(後期)
授業形態	実習	授業時間	25コマ(1コマ90分) 45.0時間
目的・目標	自動車のエンジン整備に関する、点検方法を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン整備(点検・整備) 1. エンジン点検、整備、調整 1) 各点検項目 (1) エンジン・オイルの点検 (2) 冷却水の点検 (3) 補機類の駆動用ベルトの点検 (4) エア・クリーナの点検 (5) フューエル・フィルタの点検 (6) バッテリの点検 (7) 予熱装置の点検 (8) バルブ・クリアランスの点検・調整 (9) 圧縮圧力の点検 (10) フューエル・ポンプの点検(ガソリン・エンジン) (11) スパーク・プラグの点検 (12) 点火火花の点検 (13) 点火時期の点検 (14) アイドル回転速度の点検 (15) 排気の状態の点検 (16) エンジン始動状態の点検 (17) 低速及び加速状態の点検 (18) 充電状態の点検 (19) 電気配線の点検 (20) 排出ガス浄化装置の点検 (21) エキゾースト・パイプ及びマフラの点検 2. 実習のまとめ(実習レポート) 3. 確認テスト	25コマ (45.0H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士(総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「ガソリン・エンジン構造」「ディーゼル・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優(80点以上)、良(70~80点未満)、可(60~70点未満)、不可(60点未満)		
備考	※1コマ(90分) 授業を 1.8時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	24 コマ (1 コマ 90 分) 43.2 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (動力伝達装置) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (動力伝達装置) 1. 動力伝達装置 1) クラッチ (1) 点検・修正 (イ) クラッチ・ディスクの点検 (ロ) プレッシャ・プレートの点検 (ハ) ダイアフラム・スプリングの点検 (ニ) クラッチ・カバーの点検 (ホ) レリーズ・ベアリング及びレリーズ・フォークの点検 (ヘ) クラッチ・シャフトの点検 (ト) クラッチ・ペダルの点検 (チ) マスタ・シリンダ及びレリーズ・シリンダの点検 (2) 分解、組み立ての要点 ・クラッチ本体の取り外し、取り付け ・操作機構の取り外し、取り付け 2) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイント (1) 点検・修正 (イ) プロペラ・シャフトの点検 (ロ) ドライブ・シャフトの点検 (ハ) ユニバーサル・ジョイントの点検 (ニ) センタ・ベアリングの点検 (2) 脱着の要点 3) ファイナル・ギア及びディファレンシャル (1) 点検・修正 (イ) ファイナル・ギア関係 (ロ) ディファレンシャル関係 (2) 分解、組み立ての要点 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	24 コマ (43.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」「シャシ構造 II」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度 (確認試験、提出物、出席状況等) 40% で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	24 コマ (1 コマ 90 分) 43.2 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (アクスル及びサスペンション) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (アクスル及びサスペンション) 1. アクスル及びサスペンション 1) アクスル (1) 点検・修正 (2) 分解・組み立ての要点 2) サスペンション (1) 点検・修正 (2) 分解・組み立ての要点 3) スプリング (1) 点検・修正 (2) 分解・組み立ての要点 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	24 コマ (43.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」「シャシ構造 II」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	24 コマ (1 コマ 90 分) 43.2 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (ステアリング装置) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (ステアリング装置) 1. ステアリング装置 1) ステアリング操作機構 (1) 分解の要領 (2) 組み立ての要領 2) ステアリング・リンク機構 (1) 分解の要領 (2) 点検・修正 (3) 組み立ての要領 3) パワー・ステアリング (1) 油圧式パワー・ステアリングの主な点検項目 (2) E P S の主な点検項目 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	24 コマ (43.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士 (総合) 」 全国自動車整備専門学校協会発行 「シャシ構造 I」「シャシ構造 II」 全国自動車整備専門学校協会発行 「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	24 コマ (1 コマ 90 分) 43.2 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (ホイール及びタイヤ、ホイール・アライメント) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (ホイール及びタイヤ、ホイール・アライメント) 1. ホイール及びタイヤ 1) 点検・修正 (1) ホイールの点検 (2) タイヤの点検 (3) ホイール・バランスの点検 2) タイヤの脱着 3) 車両への取付け (1) 回転方向の指定があるタイヤ及び非対称トレッド・パターン of タイヤの取付け (2) ホイール・ナット (ボルト) の締め付け (3) 大型トラック・バスの車輪の取り扱い 4) タイヤ・パンク修理 2. ホイール・アライメント 1) 点検時の注意事項 2) 点検・修正 (1) トーの測定・調整 (2) キャンバの測定・調整 (3) キャスタの測定・調整 (4) キング・ピン傾角の測定・調整 (5) 左右ホイールの切れ角の測定・調整 (6) サイド・スリップの測定・調整 (7) 4 輪アライメント・テスト 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト	24 コマ (43.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」「シャシ構造 II」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 5	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	24 コマ (1 コマ 90 分) 43.2 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (ブレーキ装置) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (ブレーキ装置) 1. ブレーキ装置の点検、分解、組立、調整、検査 1) フート・ブレーキ (1) 点検・修正 ・ブレーキドラム ・ブレーキシュー ・ホイール・シリンダ (2) 分解の要点 (3) 組み立ての要点 2) 油圧式ディスク・ブレーキ本体 (1) 点検・修正 ・ブレーキキャリパ ・ブレーキパッド ・ブレーキディスク (2) 分解の要点 (3) 組み立ての要点 3) ブレーキペダル (1) 点検・修正 4) マスタ・シリンダ (1) 点検・修正 (2) 分解の要点 (3) 組み立ての要点 5) ブレーキパイプ及びホース (1) 点検・修正 (2) 分解・組み立ての要点 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	24 コマ (43.2H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造 I」「シャシ構造 II」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度 (確認試験、提出物、出席状況等) 40% で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備作業	シャシ 6	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	20 コマ (1 コマ 90 分) 36.0 時間
目的・目標	自動車のシャシ整備 (フレーム及びボデー、安全装置) に関する、点検・修正方法や分解組立の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ整備 (フレーム及びボデー、安全装置) 1. フレーム及びボデー 1) き裂 2) リベットの緩み 2. 実習のまとめ (実習レポート) 3. 確認テスト	20 コマ (36.0H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅰ」「シャシ構造Ⅱ」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
52	自動車整備	シャシ7	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1年次(後期)
授業形態	実習	授業時間	24コマ(1コマ90分) 43.2時間
目的・目標	自動車のシャシ整備に関する、点検方法を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	点検・整備(第9章) P350~P365 1. シャシ 1 概要 2 点検・整備 1) クラッチの点検 2) トランスミッションの点検 3) プロペラ・シャフト、ドライブシャフト及びユニバーサル・ジョイントの点検 4) デイフレンシャルの点検 5) チェーン、スプロケット及びドライブ・ベルトの点検(二輪車) 6) アクスル及びサスペンションの点検 7) ステアリング装置の点検 8) ホイール及びタイヤの点検 9) 大型トラック・バスの車輪の取り扱い 10) ブレーキの点検 11) パーキング・ブレーキの点検・調整 12) 給油 2. 実習のまとめ(実習レポート) 3. 確認テスト	8コマ (14.4H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考文献	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士(総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「シャシ構造Ⅰ」「シャシ構造Ⅱ」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80点以上)、良(70~80点未満)、可(60~70点未満)、不可(60点未満)		
備考	※1コマ(90分) 授業を1.8時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
53	自動車整備作業	電装 1	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	22 コマ (1 コマ 90 分) 39.6 時間
目的・目標	自動車のエンジン電装 (バッテリー、始動装置及び充電装置) に関する、車上的における点検方法や電装品の取り外し及び取り付けの要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン電装 (第 5 章) バッテリ、始動装置、充電装置 1. バッテリ 1) 使用中の整備 (1) 液量及び比重の調整 (2) 電解液の比重の測定 (イ) 比重計での測定 (ロ) バッテリ・クーラント・テストでの測定 2) 充電 (1) 充電の種類 (2) 充電方法 (3) 充電中の電圧と比重の変化 (4) 充電上の注意 3) ブースターケーブルの取り扱い 4) バッテリ交換作業時などの注意 2. 始動装置 1) 車上的における点検 (1) スタータの回転速度の点検 (2) スタータ作動中の異音の点検 2) スタータの取り外し及び取り付け 3. 充電装置 1) 車上的における点検 (1) 充電表示の点検 (2) 出力電流及び調整電圧の点検 (3) 異音の点検 2) オルタネータの取り外し及び取り付け 4. 実習のまとめ (実習レポート) 5. 確認テスト	22 コマ (39.6H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度 (確認試験、提出物、出席状況等) 40% で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
53	自動車整備作業	電装 2	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	実習	授業時間	22 コマ (1 コマ 90 分) 39.6 時間
目的・目標	自動車のエンジン電装 (点火装置及び予熱装置) に関する、各点検方法の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	エンジン電装 (第 5 章) 点火装置、予熱装置 1. 点火装置 (ガソリンエンジン) 1) イグニッション・コイル (1) 損傷の点検 (2) 点火火花の点検 2) スパーク・プラグ (1) 電極部の碍子の焼け具合の点検 (2) 碍子の点検 (3) 電極の消耗状態の点検 (4) スパーク・ギャップの点検 2. 予熱装置 (ジゼルエンジン) 1) グロー・プラグの点検 2) 配線及び端子部の点検 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト	22 コマ (39.6H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
53	自動車整備作業	電装 3	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	22 コマ (1 コマ 90 分) 39.6 時間
目的・目標	自動車のシャシ電装 (灯火装置及び計器) に関する、各点検方法の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シヤシ電気装置 (第 7 章) 灯火装置、計器 1. 灯火装置 1) ヘッドランプ (1) ライト・コントロール・スイッチ及びディマ・スイッチの操作具合の点検 (2) 光軸の点検 (3) 光軸の調整 2) その他の灯火装置 (1) テール・ランプ及びライセンス・プレート・ランプの作動具合の点検 (2) ストップ・ランプの作動具合の点検 (3) バック・アップ・ランプの作動具合の点検 (4) ターン・シグナル・ランプの作動具合の点検 2. 計器 1) スピードメータ 2) エンジン・タコメータ 3) ゲージ類 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト	22 コマ (39.6H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
53	自動車整備作業	電装 4	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	22 コマ (1 コマ 90 分) 39.6 時間
目的・目標	自動車のシャシ電装 (冷暖房装置及びホーン、ウインドシールド・ワイパ等) に関する、各点検方法の要点を学習し、整備するために必要な基礎知識を習得する。		
授業計画	シャシ電気装置 (第 7 章) 冷暖房装置、ホーン&ワイパ 1. 冷暖房装置 1) 冷房機能 2) 暖房機能 3) 共通部 2. ホーン、ウインドシールド・ワイパ及びウインドシールド・ウォッシャ 1) ホーン 2) ウインドシールド・ワイパ (1) ウインドシールド・ワイパの取り扱い上の注意 (2) ウインドシールド・ワイパの作動の点検 3) ウインドシールド・ウォッシャ 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト		22 コマ (39.6H)
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習、復習を実施して、実習内容を実習レポートにまとめ理解度を高める。 ③授業中、項目ごとに確認テストを実施して、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行「電装品構造」 全国自動車整備専門学校協会発行「自動車整備工具・機器」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度 (確認試験、提出物、出席状況等) 40% で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
60	自動車検査作業	検査	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (後期)
授業形態	実習	授業時間	13 コマ (1 コマ 90 分) 23.4 時間
目的・目標	自動車整備に関する法規 (道路運送車両、道路運送車両の保安基準) に関する基礎知識を習得し、自動車の日常点検、定期点検、車検整備についてどのような項目を点検するのか学習する。		
授業計画	自動車整備に関する法規 1. 道路運送車両法 1 総則 2 自動車の登録 3 保安基準 4 点検整備制度 (1) 日常点検 (2) 定期点検 5 検査制度 6 自動車の整備事業 2. 道路運送車両の保安基準 1 自動車の構造 2 自動車の装置 (原動機及びシャシ関係) 3 自動車の装置 (車体関係) 4 自動車の装置 (公害関係) 5 自動車の装置 (灯火関係) 6 自動車の装置 (運転操作) 3. 実習のまとめ (実習レポート) 4. 確認テスト	13 コマ (23.4H)	
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②保安基準に適合しているか判定を行い、実習レポートにまとめる。 ③授業中に確認テストやグループワークを行い理解度を確認する。		
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行「法令教材」 自動車公論社発行「3 級法令」		
評価方法	期末試験 40%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)40%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
70	教養	一般教養	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期)
授業形態	講義	授業時間	20 コマ (1 コマ 90 分) 36.0 時間
目的・目標	ソーシャル検定 (中級) の資格取得及び社会人としてのマナーや新入社員としての基本を学ぶことにより現代社会のマナー・モラル・常識などを学習する。		
授業計画	ソーシャル検定<基本テキスト> 第 1 章 ソーシャル検定で学ぶこと 1. 社会人としてのマナー 2. 新入社員としての基本 3. 現代社会のルール 4. 現代社会のマナー・モラル・常識 第 2 章 新社会人としてのマナー 1. 挨拶 2. お辞儀 3. 挨拶の言葉 4. 身だしなみ 5. 立ち振る舞い 6. 返事とお礼 7. やるマナーとやらないマナー 第 3 章 新入社員としての基本 1. 出社と退社 2. 挨拶と名刺交換 3. 立場と序列 人間関係 4. 仕事時の服装と身だしなみ 5. ビジネス用語と言葉遣い 6. 敬語の使い方 7. 電話の取り扱い 8. ビジネス文章・FAX・メール 9. 仕事の進め方 10. 訪問と接客 11. 社内マナーと心構え 12. 外へ出た時の振舞い 13. 情報と知識 14. 整備服を着た時に注意するマナー 第 4 章 現代社会のルール 1. 自動車産業界関連のルール 2. コンプライアンス 第 5 章 現代社会のマナー・モラル・常識 1. 冠婚葬祭 2. テーブルマナー 3. SNS・スマホ・携帯電話の使い方 4. 自転車のマナー 5. 喫煙のマナー 6. その他公共マナー 7. 訪問の時間と約束 8. 変化する社会と文化 第 6 章 日頃からの心構えと練習 1. 客観視出来る様になる 2. 文字を練習する 3. 反省は繰り返し 4. 言葉遣いは日頃から 5. 諺や四文字熟語 6. 考え方を転換する		20 コマ (36.0H)
学習方法	①テキストを中心に授業を進める。また、予習・復習をし、理解を深める。 ②授業中、項目ごとに練習問題を実施し、理解を深める。 ③授業中、項目ごとに確認試験を実施し、ソーシャル検定試験 (中級) 合格をめざす。		
教科書 参考資料	全国自動車整備専門学校協会発行「ソーシャル検定」<基本テキスト> 全国自動車整備専門学校協会発行「ソーシャル検定」<応用テキスト>		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70~80 点未満)、可 (60~70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科2級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
70	教養	一般教養	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1年次(前期)
授業形態	講義	授業時間	20コマ(1コマ90分)36.0時間
目的・目標	留学生在日本で働く人のためのビジネスマナーとルールを学び、社会人としての常識を学習する。		
授業計画	ビジネスマナーとルール 第1章 ビジネスコミュニケーション 1. 日本人と働く心構え 2. 上司・先輩との付き合い方 3. 同僚との付き合い方 4. 就業時間外の付き合い方 5. 身だしなみ 6. チームワーク 7. 配慮のある話し方 8. 話の進め方 第2章 ビジネスのルール 1. 時間厳守 2. 就業時間 3. テレワーク 4. あいさつ 5. お辞儀 6. 報告・連絡・相談 7. 情報管理 8. ハラスメント 第3章 社内のマナー 1. 話を聞くとき 2. 指示の受け方 3. 注意を受けたとき 4. 退社時のマナー 5. 葬儀のマナー 6. 贈答のマナー 7. 食事のマナー 8. お酒の席のマナー 第4章 社外のマナー 1. ウチとソトの関係 2. 名刺の取り扱い 3. 仕事に役立つ雑談 4. 場所ごとの席次 5. 案内と見送り 6. 訪問のマナー 7. 営業活動 8. 派遣と出向 第5章 ビジネスのスキル 1. 敬語の使い方 2. 話し言葉と書き言葉 3. 漢字の使い方 4. ビジネスルールの形式 5. ビジネス文書の形式 6. はがきと封筒の使い方・書き方 7. 電話の受け方 8. 電話をかけるとき		20コマ (36.0H)
学習方法	①テキストを中心に授業を進める。また、予習・復習をし、理解を深める。 ②授業中、項目ごとに練習問題を実施し、理解を深める。 ③授業中、項目ごとに確認試験を実施し、理解度を確認する。		
教科書 参考資料	日本能率協会マネジメントセンター発行「留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80点以上)、良(70~80点未満)、可(60~70点未満)、不可(60点未満)		
備考	※1コマ(90分)授業を1.8時間とする		

専門学校広島工学院大学
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
80	教養	工作作業	
担当教員	派遣授業（広島県溶接協会）		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次（前期）
授業形態	講義	授業時間	8 コマ（1 コマ 90 分）14.4 時間
目的・目標	溶接（ガス溶接）の基礎知識を学び、実践する。		
授業計画	ガス溶接技能講習（広島県労働基準協会）		8 コマ (14.4H)
	(学科) 第 1 章 ガス溶接等に用いる可燃性ガス及び酸素の知識 1.1 ガスの種類 1.2 ガスの性状 1.3 燃焼と爆発 1.4 可燃性ガス 1.5 酸素 第 2 章 ガス溶接等の装置の構造及び取り扱い 2.1 ガス容器その他 2.2 圧力調整器および圧力計 2.3 導管 2.4 吹管 2.5 安全器 第 3 章 ガス溶接作業等の作業における危険性 3.1 あらまし 3.2 火災とその防止策 3.3 爆発災害とその防止対策 3.4 その他の災害 第 4 章 災害事例 第 5 章 関係法令 修了試験 (実技) ・設備の取扱方法及び実践		
学習方法	①教科書を中心に講習を進める。また、予習・復習をし、理解を深める。 ②授業中、項目ごとに練習問題を実施し、理解を深める。 ③修了試験を実施する。		
教科書 参考資料	中央労働災害防止協会「ガス溶接・溶断作業の安全」		
評価方法	期末試験 60%、単元試験 20%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優（80 点以上）、良（70～80 点未満）、可（60～70 点未満）、不可（60 点未満）		
備考	※1 コマ（90 分）授業を 1.8 時間とする		

専門学校広島工学院大学校
自動車整備科 2 級自動車整備士コース

コード	科目名	項目名	
90	教養	特別教育活動	
担当教員	上田 修 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 上宮 剛 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 木原 洋二 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等) 楠木 良治 (実務経験内容: 自動車の点検・車検・整備・故障診断 等)		
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次 (前期・後期)
授業形態	講義・実技	授業時間	12 コマ×2 (1 コマ 90 分) 21.6×2 時間 (1 年次)
目的・目標	① 古沢学園の教育理念に基づき、集団生活への適応と幅広い人間関係を作る。 ② 職員と学生が寝食を共にし、相互の理解を深める。 ③ 職員と学生が共通の体験を通じ、喜び・楽しさ・達成感を共有することで互いの絆を深める。		
授業計画	特活 (三瓶研修) 1 年次前期 ----- 1. 登山研修 ・自然に親しみ、理解を深めるとともに、集団で困難な目標に立ち向かうことで、所属感や達成感を育成する。 ・地図を頼りにグループで登山を行うことで、意思決定の場面などを作り出し、「協力」「個人の取組み姿勢」「グループのあり方」などを考える。 2. 発声・集合訓練 [目的・目標] ・コミュニケーションの第一歩である挨拶を、声を張り上げることにより、照れないで自然と挨拶ができるようにする。 ・集合訓練では、集団生活の中で必要な規律を得るようにする。 3. グループ・ワーク [目的・目標] ・目的達成のため仲間意識が生まれ、情報を交換しながら共有させる。 ・目的に向かって構成員相互に啓発・奨励しながら学習させる。 ・学習の成果を仲間とともに自己表現できる場とさせる。 4. 集団生活 [目的・目標] ・寝食を共にすることにより、社会性や人間関係の育成を図る		
	特活 (江田島研修) 1 年次後期 ----- 1. カッター訓練 [目的・目標] ・全員で漕いだときの推進力を味わい、チームワークの大切さを得る。 ・全力を出し切り達成感を味わう 2. 発声・集合訓練 [目的・目標] ・コミュニケーションの第一歩である挨拶を、声を張り上げることにより、照れないで自然と挨拶ができるようにする。 ・集合訓練では、集団生活の中で必要な規律を得るようにする。 3. グループ・ワーク [目的・目標] ・目的達成のため仲間意識が生まれ、情報を交換しながら共有させる。 ・目的に向かって構成員相互に啓発・奨励しながら学習させる。 ・学習の成果を仲間とともに自己表現できる場とさせる。 4. 集団生活 [目的・目標] ・寝食を共にすることにより、社会性や人間関係の育成を図る		
学習方法	研修プログラムに基づき実施する。		
参考資料	専門学校広島工学院大学校専用「研修プログラム」		
評価方法	出席状況、取組・態度で総合評価 優 (80 点以上)、良 (70～80 点未満)、可 (60～70 点未満)、不可 (60 点未満)		
備考	※1 コマ (90 分) 授業を 1.8 時間とする		